

【技術の名称】 鍛造定着工法「ステッキバー」 -熱間鍛造加工による機械式定着鉄筋-	性能証明番号：GBRC 性能証明 第 20-02 号 性能証明発効日：2020 年 5 月 11 日
	【取得者】 共英製鋼株式会社

【技術の概要】

本技術は、熱間鍛造加工によって楔形にした定着部を有する機械式定着鉄筋（ステッキバー）を、基礎梁のせん断補強筋（中子筋）に用いて梁主筋を拘束し、部材の強度を確保するものである。ステッキバーは、従来の135°フックと同等の性能を有する中子筋であり、主筋の組み立て後に配筋が可能のため、施工手順が簡素で施工の合理化が可能であり、工期短縮が望める工法である。

【技術開発の趣旨】

一般的に基礎梁の多段配筋施工時には、鉄筋組立（鉄筋施工）の手間が多く、基礎部の工期が長くなる。本技術は基礎部施工簡素化を目的に、鉄筋組立て手順上、据え付けが難しい中子筋を機械式定着鉄筋に置き換える工法として開発された。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「鍛造定着工法「ステッキバー」 設計施工指針」、および「鍛造定着工法「ステッキバー」 標準製造・品質管理要領」に従って設計・製造・施工された鉄筋コンクリート造基礎梁は、135°フック付き中子筋を有する基礎梁と同等の性能を有する。

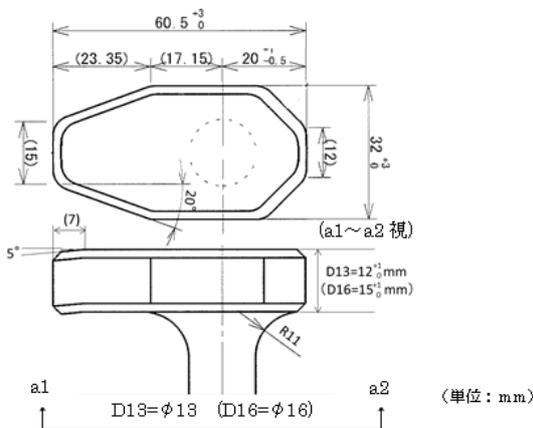


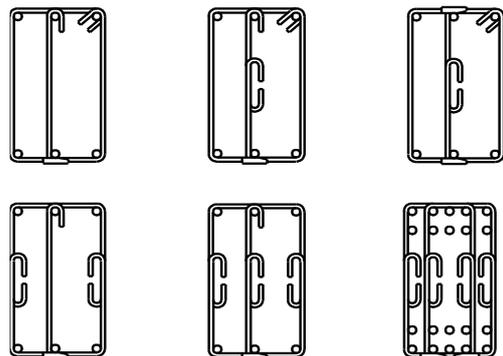
図1 ステッキバー形状

○ステッキバーの適用範囲

項目	内容	
構造種類	鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造およびそれらのプレキャスト構造	
部材	基礎梁のせん断補強筋（副あばら筋、中子筋）	
コンクリート種類	普通コンクリート	
コンクリートの設計標準強度 (Fc)	ステッキバー：D13 被拘束鉄筋（主筋）：D19～D41の場合、Fc=21～60N/mm ² ステッキバー：D16 被拘束鉄筋（主筋）：D19～D41の場合、Fc=30～60N/mm ²	
被拘束鉄筋（主筋）(JIS G 3112)	鉄筋種類	SD345、SD390、SD490
	鉄筋径	D19～D41
拘束鉄筋（せん断補強筋）(JIS G 3112)	鉄筋種類	SD295A、SD345
	鉄筋径	D13、D16

○ステッキバーの使用例

ヒンジが生じない基礎梁の副あばら筋（中子筋）の端部フック(135°フック)の代替として用いるものとする。



【本技術の問合せ先】

共英製鋼株式会社 担当者：上道 雅丈

E-mail：uemichi@kyoeisteel.co.jp

〒530-0004 大阪市北区堂島浜 1-4-16 アクア堂島西館 18F

TEL：06-6346-5321 FAX：06-6346-5324